

第3回 恵庭市学力・体力向上推進会議 会議録

〔開催日時〕 平成31年2月15日（金）14:00～15:00

〔開催場所〕 恵庭市民会館 1階 第1会議室

〔出席者（敬称略・順不同）〕

委員長／長岡 秀明（恵庭市教育委員会点検評価委員会）

副委員長／川原 淳一（恵庭市PTA連合会）

委員／田島 与久（恵庭市教育委員会点検評価委員会）

結城 健介（恵庭市教育委員会点検評価委員会）

谷口みどり（恵庭市小中学校校長会）

藤村 哲子（恵庭市小中学校教頭会）

佐々木 保（若草小学校・柏陽中学校 学校運営協議会）

木村 博子（恵庭市教育委員会指導主事：学力向上アドバイザー）

事務局／教育長、教育部長、教育部次長、学校教育課長、学校教育課主査・スタッフ

〔傍聴者〕 2名

〔内 容〕 ※長岡委員長が進行

1. 開会
2. 委員長挨拶
3. 教育長挨拶
4. 議事

1) 英検 I B A の実施結果について

①事務局より、資料1に基づき説明

【説明要旨】

学校や生徒本人が現在の英語力を把握し、学習成果の確認や目標設定に活用することで英語力の向上を図るため、今年度、市教委が一括して申し込みを行い、市内の中学2年生を対象に、12月に全中学校で実施した。内容については、受験レベルが「テストD」という、英検でいうと3級～5級レベルの問題、問題数は65問で、試験時間は45分と、各校で授業の1コマを使って実施した。

受験者数は586名で、英検などに共通した尺度であるCSEスコアの全校平均は、1000点満点で換算して720.3点でした。

「英検級レベル別の判定」「全体分野別平均正答率」は、グラフのとおり。

今年度は全校での実施初年度であります、次年度も実施を継続することで、今年度との比較が可能となる。



なお、学校ごとの結果につきましては、それぞれ各校に送付されておりますが、今後、全体場で情報共有を図りたいと考えている。

②市の「学力向上アドバイザー」である木村委員より、英検 I B A受験の意義や活用方法などについて情報提供

【意見等】

A委員：英検 I B Aのことが分からないが、表の見方について、級のどちらが良くて、どちらが悪いのか。

B委員：級の数字が少なくなるほど、レベルが高い。

A委員：個々への結果通知に関して、子どもや保護者の反応はどうだったのか。

B委員：まだ渡したばかりなので、すべての反応をつかんだわけではないが、自分の現在の力がわかり、次の目標が定まるのではないか。受験者個々に対して非常に具体的なコメントが書かれていて、自分の点数も分かる。自分なら、次は 3 級を受けてみよう、という気持ちになる。

A委員：自分に自信のある生徒については向上心に結びつき、より上を目指そうと思うが、平均以下の生徒についてのフォローについてはいかがか。

B委員：生徒に対する先生方の指導用の資料として、使うこともできると思う。

A委員：市教委としての意図が生徒や先生に伝わったどうか。教員へそのような周知はしたのか。

B委員：結果が出たばかりなので、これから周知していく。

C委員：現場では、英語の先生を通じて生徒に結果を返している。結果はカラーで非常に見やすい。具体的な助言が記載されており、一人ひとりの弱いところを細かく分析している。非常に丁寧な個人票だと感じた。本校は英検の準会場にもなっており、英検を受けている生徒も多く、全体に良い結果の生徒が多かった。4 級が中学 2 年生のレベルだと思うが、3 級レベル以上の生徒も多かった。大変有意義で、実施されて良かったと思う。

A委員：レベルが高かったということは、中学校の前段階で指導をしているのか。

C委員：英語のスタートはどこも一緒だと思う。小学校では「外国語活動」を行い、中学校で英語が始まる。本校の場合は地域性もあり、全体的に勉強する生徒、目標の高い生徒が多いので、学習する雰囲気作りができていていると思う。英語教員が 2 人いるが、ベテランで指導力も高いことから、英語が好きで、英語をやりたいと思う生徒が多い。

A委員：幼稚園で英語をやっているところがある。恵庭市の場合、そういった土台があるのかを確認したかった。

2) 31年度 学力・体力向上に係る予算(案)について

事務局より、資料2に基づき説明

【説明要旨】

今年度の学力・体力向上に係る取組の推進状況については、5月に会議を設置し、7月に第1回会議を開催。その後、委員から事前に意見をいただいた上で、9月の第2回会議で意見交換、その内容を踏まえ、次年度の予算要求を行った。

委員からは、「英検I B Aについては、実施後の成果・課題等を検証したうえで、拡大について検討すること」「外国語活動の教科化・時数増に伴い、英語教育の充実を図るため、ALTの配置を拡大する」「ハイテクACアカデミーやセントラルフィットネスクラブ恵み野にお願いしている小学校体育授業支援は、市教委で取りまとめた上で、小学校全校で実施する」などの意見をいただいたところである。

これらの意見を踏まえた、学力・体力向上に係る主な予算（案）は、「小学校体育授業支援の全校実施・回数拡大」「委託ALTの増員」「地域人材の活用の充実」など、拡大した事業を中心に掲載しておりますが、委員からの意見を、次年度予算に反映することができた。

【意見等】

特になし

3) 31年度 小学校体育授業支援事業（案）について

事務局より、資料3に基づき説明

【説明要旨】

小学校の体育授業において、「児童の体力・実技能力の向上」や「教員の指導能力の向上」を図るため、次年度も引き続き、市内の専門団体に協力をいただき実施する。

これまでも、陸上、器械体操については北海道ハイテクACアカデミーに各校ごとに、水泳についてはセントラルフィットネスクラブ恵み野に市教委を通じて指導をお願いしていたが、委員からの意見も踏まえ、次年度はその両方について、市教委が全小学校分を取りまとめた上で実施し、1校あたりの回数に上限を設定したうえで、予算の範囲内で市が謝金を支払う仕組みにしたいと考えている（実施の流れについては資料のとおり）。

なお、事業実施後は実績報告書を市教委に提出することとし、「体育授業の充実」や「教員の指導能力の向上」など、事業実施の効果や課題について検証することとする。

【意見等】

A委員：セントラルで過去4年やっていたという「実績報告書」はあるか。

事務局：これまでは、各校で実施した効果を検証していないので、次年度からは実績報告書を提出いただくことを考えている。

A委員：実績報告が教員の負担にならないとよいが、体力向上のために、外部指導者の

力を借りて実施し、効果を検証することは必要だと思う。

委員長：実績報告書の記載事項の簡略化が必要だと思う。

D委員：どの程度の効果について報告しなければならないのか。実施回数が少ないので、指導面や子どもたちの意欲の点についての報告が中心となると思う。

事務局：セントラルについて、昨年度までは市教委が取りまとめ、無償でお願いしていたが、次年度からは謝金を支払うので、実績をおさえる必要がある。様式はこれから決めるが、手間がかからないように、できるだけ簡略化しながら、効果的な報告書となるようにしたい。

E委員：小学校にとって良い取り組みだと感じる。予算額がそんなに多くないが、具体的にどれくらいの回数を考えているのか。

事務局：ハイテクは全学年（6回）×小学校8校の積算での予算措置。セントラルはボランティアで協力いただいております、交通費の実費相当分の予算措置。実施回数については、セントラルのできる範囲で実施していただく予定。

4）恵庭市学力・体力向上推進会議設置要綱の一部改正（案）について

事務局より、資料4に基づき説明

【説明要旨】

学力・体力向上のうち、学力については市の「学力向上アドバイザー」を委嘱しているが、体力向上の分野に係る分析や議論を行うにあたり、専門的な立場から助言を行う人を新たに委員として委嘱したいと考えている。委員の選任先については、市内のスポーツ関係団体等を考えている。

要綱の改正案については資料のとおり（第3条の「組織」に「体力向上に関わる有識者」を加える。）。

今後、要綱を改正のうえ委員を選任し、委嘱したいと考えています。

【意見等】

特になし

5．意見交換

F委員：前回提起した、体力向上に係るスクールバスの影響はどうか。北海道は、スクールバスが多くて徒歩通学が少なく、体力がないと指摘されている。例えば和光小と恵庭小との比較も大切だと、前回お話しした。地域によっては500メートル手前で降ろしている。私が小学校の教員だった頃は、中休みに学校の周りを歩いたり走ったりしていた。

A委員：体育の授業時数が減っている。遊び場所も制限され、室内でゲームをすることが多くなり、体力をつけることを我々大人が遮っているのではないかと思う。

事務局：スクールバスは全員が乗れるわけではなく、何キロ以上離れているとか、道路上危険、特別な配慮が必要などの理由により乗車を許可している。乗っている人と乗っていない人を単純に比較するのは難しい。利用者数については、把握している。

F委員：和光小の利用割合はどのくらいか。恵庭小との比較でも良い。

事務局：利用者は3割くらいである。今後、調査していきたい。

G委員：英検I B Aは良いと思う。自分がどのくらいの位置にいるのか、全国レベルでの指標になる。結果の受け止め方は、生徒次第である。

A委員：最近の報道で、A I での教育についての記事があった。読解力が弱く、落ちている。A I 教育も必要。

E委員：親の立場で考えると、子どもに学力をしっかりとつけてもらいたい。そのために、恵庭市ではいろいろな施策を行い、着実に学力がついてきており、うれしい限り。体育では専門家を入れ、英語ではA L Tを入れる。体育、英語にとどまらず、理科でも数学でも、勉強が面白いと思ってほしい。そうすると、自然に学力がつく。そのような取り組みを進めてほしい。

6. 次年度のスケジュールについて

事務局より説明

【説明要旨】

次年度も、恵庭市の学力・体力の向上につながるよう取り組みを進めていきたい。

次年度の会議は、第1回会議が6～7月頃、第2回会議が8～9月頃、第3回会議が1～2月頃と、年3回の開催を予定。

7. 閉会